

今号の主な内容

特集 日本の医療・福祉の未来を担う
市内3大学とともに …5面

クローズアップ
「音訳」のプロフェッショナル …3面

お知らせ～information …6～8面
スマートフォンなどで市報が読める「マチイロ」ダウンロードはこちら⇒



平成30年度 所信表明(要旨)

さらに安全・安心な、 元気で住みよいまちに —子育てクーポンや健幸ポイント事業を拡充—



3月1日に開会した清瀬市議会第1回定例会で、渋谷金太郎市長が、平成30年度の基本的な市政の運営方針や主要事業についての考え方を表明しましたので、その要旨をお知らせします。
なお、所信表明の全文は市ホームページに掲載しています。

平成30年度も、「手をつなぎ、心をつむぐ、みどりの清瀬」の基本理念のもと、厳しいなかでも、市政の諸課題に積極的に対応してまいります。

そして、市民の皆さんには、自分たちのまちを自分たちで創るという気持ちを持っていただき、市民の皆さんとともに、さらに安全・安心な、元気で住みよいまちをつくってまいりたいと考えております。

安全でうるおいのある 暮らしができるまち

災害対策は、引き続き最重要課題と位置付け、計画的な備蓄食糧や災害対策用備品の充実を図ります。また、消防団の訓練施設をリハビリテーション学院の跡地に整備するほか、災害時に罹災証明書の発行を効率的に行えるよう被災者生活支援システムを導入し、災害に対する備えに万全を期してまいります。

さらに、高齢者の振り込め詐欺被害が市内で多い現状を受け、自動通話録音機を29年度に100台無料で貸し出しましたが、30年度はさらに200台の貸し出しを行います。

内山運動公園は近隣にはないサッカー場の環境が整っており、大きな大会が開催されるなか、駐車場が不足していることから、新たに約70台分の駐車場を整備します。

男女平等社会の推進では、女性の活躍を推進するため、女性が働きながら暮らしやすいまちをつくることを目的に、女性自身のキャリアや特技を生かして自ら起業する女性起業家育成事業や、介護をはじめ地域課題の解決のために活動を起こす社会起業家育成事業などをを行います。

健幸でともに支え合うまち

誰もが生きがいを感じ、自分らしく安心して暮らせるよう、引き続き地域包括ケアシステムの構築を進めます。

また、生活困窮者自立支援事業を拡充し、新たに家計相談や就労準備事業を行うほか、日本社会事業大学と連携し、子どもの貧困対策調査を実施します。

さらに、健幸ポイント事業の対象者を750人から千人に拡充し、いつまでも元気に日常生活を送りながら幸福だと感じる事ができる健康づくりを支援します。

子どもたちを健やかに育むまち

待機児童の解消に向けた、新たに事業所内保育所1施設を含む認可保育園2園を開設し、21人の定員増を図ります。また、妊娠期・出産・母子保健の切れ目のない支援、ネウボラ事業を充実させるとともに、子育てクーポン事業の対象者を0歳から3歳までを、5歳までに拡充し、さらに「子育てしやすい清瀬」を推進します。

また、学力の向上に向け、すべての小中学校で実施している塾講師による放課後補習を、小学校ではより効果の見込める5年生に順次移行していくほか、立科山荘でのイングリッシュキャンプを引き続き実施します。

豊かな自然と調和した 住みやすく活気あるまち

安全で住みやすいまちに、自動車や歩行者や自転車、整備は欠かせません。六小前の市道0115号線の歩道拡幅整備工事は、梅園乳児保育園前から志木街道まで進め、30年度で工事を完了いたします。また、都市計画道路事業は、たから幼稚園前交差点から志木街道までの東3・4・17号線の用地買収、及び新座市大和田から関越道までの東3・4・26号線の事業認可に向けた現況測量を進めます。さらに、市道0106号線、市役所西側道路整備のための基本設計及び無電柱化の予備設計、市道0210号線、清小北側道路の歩道用地購入、市道0117号線、東京病院前の道路の歩道拡幅に向けた測量などを行います。

都市格が高いまち

生活の多様な変化によって、さまざまな地域課題が生まれるなか、その課題解決には、行政に限らず、多様な担い手によって、より高い効果が得られるものもあります。市民による地域課題解決に向けたワークショップを実施し、市民が地域に目を向け、地域課題を洗い出し、その解決に向け、得意分野を発揮できる企業やNPO、大学などのマッチングを行う新たな仕組みづくりの構築を目指します。

また、業務の効率化と市民サービスの向上は、我々に課せられた変わらぬ使命ですので、引き続き行財政改革を進めてまいります。

となり、ゲリラ豪雨などの根本的な対策が図れます。

公園の整備では、野塩の前原橋東側に、寄付していただいた土地を活用し、新たな公園を整備いたします。

昨年12万3千人の来場者を数えた清瀬ひまわりフェスティバルは、さらに来場者が増えることが見込まれるため、今まで以上に安全対策を十分に図りながら実施してまいります。また、引き続き農業経営に要する施設の設置、改修、農機具の購入に対する助成や、都市農業活性化支援事業としてパイプハウスの設置などへ助成を行います。

さらに、子育てクーポンと健幸ポイント事業の拡充により、市内の商店などで使える商品券約2千200万円分を発行し、地域経済の活性化を図ります。

30年度は、保育料の適正化に向けた定期的な検討を行うための使用料審議会を開催するほか、ごみ収集ではビンの収集業務の委託化を図ります。

今後の行政運営の大きな課題であります公共施設マネジメントについては、公共施設再編計画の検討を進めるとともに、清瀬駅南口地域への児童館の設置について検討してまいります。

新庁舎の建設につきましては、計画どおり実施設計を進めており、30年度中には南側敷地の用地取得を行うとともに施工者選定を実施し、31年度には工事に着手する予定です。